

GIANT WheelSystem オーナーズマニュアル

ver20200915

GIANT WheelSystemをお選びいただき、ありがとうございます。
GIANT WheelSystemは、レースやロングライドにおいてお客様の目標達成をアシストするために、高度なエンジニアリングを用いて設計された革新的なプロダクトです。
以下の手順に従うことにより、ご利用のプロダクトの性能を最大限に引き出し、その性能を永く維持することができます。本マニュアルの内容に関するご質問がある場合は、お近くのGIANT正規販売店にお問い合わせ下さい。

重要：

本マニュアルには、安全性、性能および修理に関する重要な情報が含まれます。新しいホイールを取り付ける、または、初めての乗車前に本マニュアル必ず本マニュアルをよくお読みください。なお、本マニュアルはいつでも参照できるように大切に保管してください。
下記HPにて最新情報を随時更新していきますので、ご確認ください。
<https://www.giant.co.jp>



警告

- GIANT WheelSystem の取付及びメンテナンスに関連する以下の指示に従うことは、適切かつ安全な操作を行うために不可欠です。これらの指示に従わなかった場合、重傷や死亡につながる重大な事故を引き起こす可能性があります。
- GIANT WheelSystem は、自転車での使用を目的として設計されています。ホイールまたはその構成部品を他の用途、工具またはおもちゃとして、あるいは、本マニュアルに記載されている以外の目的で使用することはできません。自転車での使用を目的としない場合、弊社の品質保証の対象外となります。
- GIANTが認定しないタイヤやブレーキパッドの使用は、保障対象外となるだけでなく、安全上重大な事故につながる可能性があります。

※GIANT SLR Hookless wheelsystemを使用する場合

- フックレスリムを採用したGIANT SLR Hookless WheelSystemは、カーボンコンポジットビードを使用したGIANTチューブレスタイヤと組み合わせが最適です。
- GIANTチューブレスタイヤ以外の表示される最大圧力が72.5psi (5bar) を超えるタイヤの使用をご希望の場合は、GIANT テストプロトコルに合格したGIANT認定タイヤを使用してください。GIANT認定タイヤについては、GIANT公式Webサイトをご確認ください。
<https://www.giant.co.jp/giant21/showcase/hookless-technology/>
- また、必要に応じて、GIANT認定タイヤを使用時に限り、GIANT SLR Hookless WheelSystemにインナーチューブを使用することができます。
- GIANT SLR Hookless WheelSystemには、ETRTO規格の適合したGIANTもしくはCADEXチューブレスシステム関連商品をご使用ください。

乗車の前に

- 自転車（フォークやフレームとの隙間など）及び他の部品（ブレーキの種類、QRレバー、スプロケット、タイヤ、バルブ、ナットなど）と互換性があることを確認してください。
また、走行前に、ホイールが適切に取り付けられていることを確認してください。
- 問題が発生した場合、または、本マニュアルの内容に不明な点がある場合は、お近くのGIANT正規販売店にお問い合わせください。

警告

ホイールが正しく固定されていない場合、重症または死亡を伴う重大な事故を引き起こす可能性があります。

アセンブリ A GIANT WheelSystem を チューブレスタイヤと共に使用する場合:



注意：

GIANT WheelSystem (チューブレステープ、チューブレスバルブ、チューブレスシーラント、チューブレスタイヤ) を組み立てる際は、本マニュアルを参照し、お近くの GIANT 正規販売店にお問い合わせください。

- チューブレスタイヤを GIANT WheelSystem に取り付けるときは、GIANT Tubeless System のチューブレステープ、チューブレスバルブ、チューブレスシーラントおよびチューブレスタイヤと組み合わせてご使用ください。
- チューブレステープを取り付けるときは、テープがリムベットの中心に張られ、リムの全幅を十分にカバーしていることを確認してください、また、テープがバルブ穴の両側で 15cm 重なるようにします (図 1)。
- チューブレスバルブを取り付けます (図 2 及び図 3 を参照)。付属の O リングがロックリングとリムスパーサーの間に正しく配置されていることを確認します (図. 2)。ロックリングの締め付けは工具を使用せず指の力で行ってください。

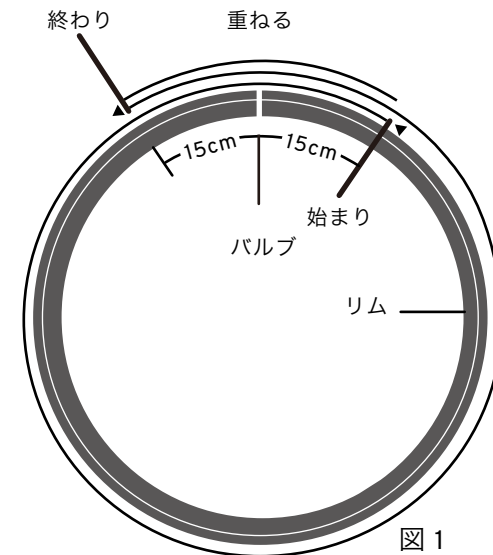
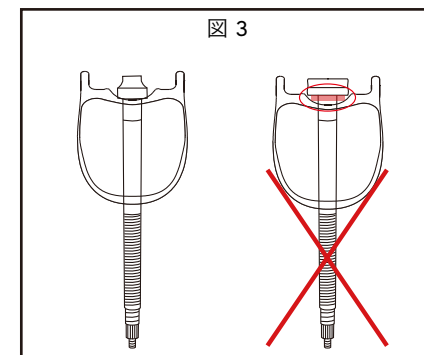
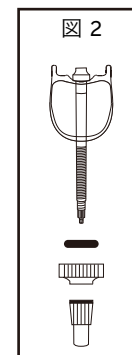


図 1



4. チューブレスタイヤの取り付けについては、「アセンブリ B, GIANT WheelSystem にチューブレスタイヤを取り付ける方法」を参照してください。
5. シーラントの注入方法については、「アセンブリ C, GIANT WheelSystem にシーラントを注入する方法」を参照してください。
6. GIANT WheelSystemが持つ性能を最大限に引き出すためにも、GIANT tubeless WheelSystem(チューブレステープ、チューブレスバルブ、チューブレスシーラント、チューブレスタイヤ)と共にご使用ください。

⚠ 警告

- ・タイヤを取り付け/取り外しする際はタイヤレバーを使用しないことをおすすめします。着脱が困難な場合は、必要に応じて専用設計のタイヤレバーや、インスレーションツールをご使用ください
- ・チューブレスタイヤとGIANT WheelSystemをシーラントなしで使用すると、空気圧の低下が早くなり、自己パンク修復機能が作動しません。また、パンクと同時に空気圧が急激に低下する可能性があります危険です。
- ・パンク修復機能を確実に作動させるためにも、GIANT TubelessSystem シーラントのみを使用してください。GIANT TubelessSystem 以外のシーラントを使用した場合、タイヤ、リム、チューブステープが腐食したり、著しく劣化が早まることがあります。

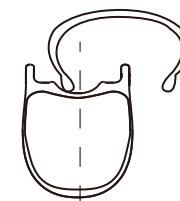
⚠ 注意

やむを得ずタイヤレバーを使用する場合は、慎重に作業を行ってください。工具の鋭いエッジや材質により、リムを損傷させる可能性があります。タイヤレバーはGIANT WheelSystemの付属品やGIANT/Livのチューブレス対応モデルをご使用ください。

アセンブリ B GIANT WheelSystem に チューブレスタイヤを取り付ける方法:

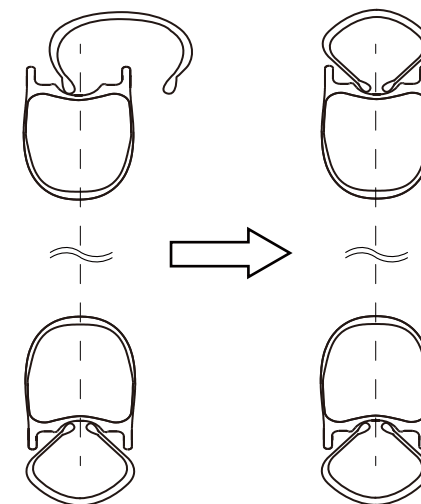
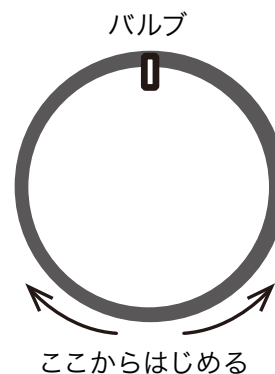
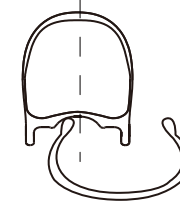
ステップ1:

バルブの反対側から、ホイール右側のタイヤビードをリムセンターに落としこんでいきます8割ほどビードが収まったら、チューブレスバルブのゴムをまたぐようにして、ビードの残りの部分を落としこみます。(チューブレスバルブを境にリムセンターを左右に分けた時、右側のビードがすべてホイール右側のリムセンターに収まるようにします。)



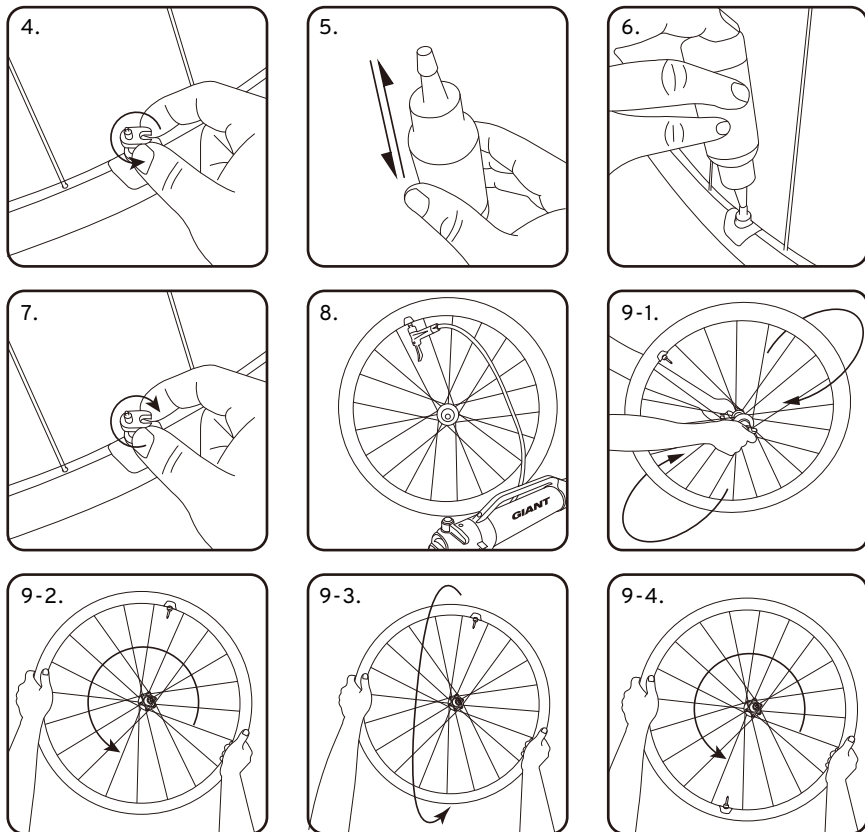
ステップ2:

バルブの反対側から、左側のビードを左側のリムセンターに落としこんでいきます。ビードをバルブ付近まで落としたら、もう一度ビードの収まりを確認しより多くのスペースを作り、できるだけタイヤレバーを使わずにビードの残りの部分を落とし込みます。この時左右のビードがチューブレスバルブのゴムを挟み込むようにします。(取り付けが困難な場合にはGIANT Tubeless Systemの専用潤滑剤を使用してください。)



アセンブリ C GIANT WheelSystem に シーラントを注入する方法:

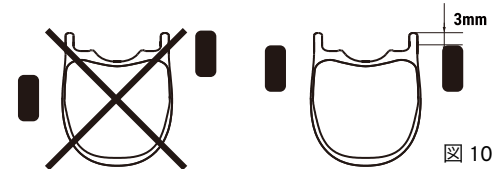
- 手順 1: 付属のバルブツールを使用し、バルブコアを外します。(図4)
 手順 2: ボトルをよく振りシーラント内の粒子を十分に攪拌させます。(図5)
 手順 3: 開いているバルブ本体からシーラントを注入します。推奨される量はタイヤ1本につき28C以下は30ml、28C以上は60ml(図6)
 手順 4: 付属のバルブツールを使用し、バルブ本体にバルブコアを戻します。バルブコアとロックナットがしっかり取り付けられていることを確認します。(図7)
 手順 5: タイヤ、またはホイールに記載されている最大空気圧を超えないよう注意しながら空気を入れます。(図8)
▲最大空気圧はホイールとタイヤ、2つの最大空気圧のうちの低い方に従ってください。
 手順 6: ホイールを手で回転させ、左右に優しく振り、タイヤ全周にわたってシーラントを拡散させます
 手順 7: その後、空気圧が下がっていないことを確認し5分間は空気圧を下げずに維持してください。(図9)



ブレーキ:

重要:
 カーボンリムは低速でのブレーキング時に振動する事があります。ベストなブレーキ性能を確保するため、GIANT WheelSystemリムには、GIANTカーボンリム専用ブレーキパッドのみを使用してください。他のパッドでは十分なブレーキ性能を発揮しないだけでなく、カーボンリムの過熱につながり、カーボン繊維の層間剥離を引き起こす可能性があります。これらの指示に従わなかった場合、製品の保証が受けられないだけでなく、重傷または死亡にいたる重大な事故を引き起こす可能性があります。

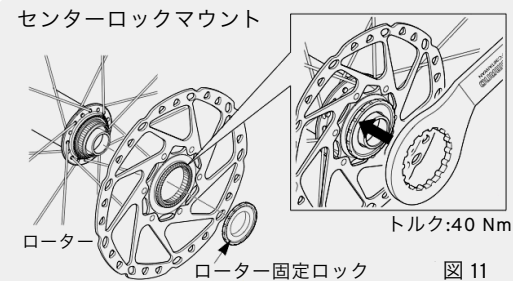
- ブレーキ、フレーム、フォークおよびホイールの互換性を確認してください。ブレーキと関連構成部品を取り付ける際はメーカーの推奨に従ってください。
- リムブレーキパッドを取り付け、調整するとき、リムの端から3mmのところパッドを配置してください。(図10) リムの端に近いところに取り付けると、連続してブレーキを使用したときに過熱したり、カーボン繊維が損傷する可能性があります。



警告

ブレーキパッドを不適切に調整した場合、保証の対象外となります。

- センターロックタイプのディスクブレーキローターの取り付けは図11をご覧ください。ローターの取り付けについては、ディスクブレーキメーカーの取扱説明書に従ってください。



注意

- ディスクブレーキホイールにリムブレーキを取り付けないでください。
- GIANT 認定以外のブレーキパッドを使用することにより損傷したリムには、製品保証が適用されません。
- リムは消耗品です。摩耗の程度を定期的に確認し、摩耗または損傷している兆候が現れたら、直ちにリムを交換してください。
- ブレーキは必ず前後のブレーキを同時に使ってください。下り坂ではブレーキを小刻みに掛けながら走ってください。ブレーキを強く掛けたまま走るのを避けてください。リムが過熱しタイヤを損傷させる原因となります。
- リムが濡れている場合や、新しいホイールまたは新しいブレーキパッドを使用した場合は、ブレーキ力も低下します。状況に応じて危険のない運転を行ってください。

メンテナンスとお手入れ

- 製品の荷重制限 (ライダーの体重 + 自転車 + 荷物)
 - ロードバイク用 WheelSystems: **129 kg**
 - マウンテンバイク用 WheelSystems: **136 kg**
- ホイールの保管
 - 不適切な保管により、カーボンホイールが損傷する可能性があります。ホイールを吊り下げて保管しないでください (図 12)。



注意：
車のラックにホイールを固定すると、想定外の力が加わり、ホイールが損傷する可能性があります。

- 調整が必要な場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。スポーク張力とホイール精度は定期的に確認する必要があります。スポーク張力が不均一な場合、ホイール構成部品への負荷が大きくなり故障の原因となります。
- ホイールに損傷がないか、定期的に確認してください。リムまたはホイールの他の構成部品に損傷が生じた場合 (例えばリムに亀裂が生じた、スポークが折れた、ベアリングに緩みまたは遊びがある)、このホイールは使用しないでください。このような場合は、お買い上げの販売店にて、点検・整備を行ってください。
- 万一の事故や落車の際には必ずお買い上げの販売店にてホイールに損傷があるかどうか確認してください。
- 清掃：

- ホイールは柔らかいスポンジと適切な洗浄剤で頻繁に洗浄する必要があります。アセトンや精製油のような溶剤は使用しないでください。
- 前輪ハブおよび後輪ハブは、少なくとも年に1回メンテナンスする必要があります。極端な条件下 (例えば、強い雨、泥、雨中の運搬など) でご使用の場合、フリーボディおよびラチェットのメンテナンスをさらに短い周期で行う必要があります。ハブを定期的にメンテナンスすることで、ハブの寿命が延び、長期間最適な性能が維持されます。高圧洗浄機または洗浄剤を過度に使用すると、汚れがハブに混入する原因となります。また、有機溶剤は使用しないでください。
- シーラント：気密性とパンク修理機能を維持するために、下記の頻度でシーラントの状態を確認してください。
 - 2 か月おき：シーラントの確認と補充 必要に応じて補充を行う。
 - 6 か月おき：チューブレスリムテープの確認。必要に応じて交換を行う。
 - 年 1 回： 柔らかく湿ったタオルを使って、古いシーラントまたは乾いているシーラントを拭きとり、タイヤの内部を清掃する。

▲シーラントのメンテナンスを怠った場合、パンク修復機能が作動しない場合があります。

▲ 注意：

- 走行前にタイヤの空気圧を確認し、タイヤ、ブレーキパッド、リムブレーキ面から、汚れおよびブレーキパッドの残留物 (特にオイルまたはグリースの跡) をすべて洗い流してください。また、ブレーキパッドの摩耗の程度をチェックし、異物 (砂粒、ほこり、油など) をすべて取り除いてください。ブレーキパッドが摩耗している場合、絶対に乗らないでください。毎走行前に、リムブレーキ面の摩耗を確認してください。最適なブレーキ性能を維持するため、ブレーキパッドが摩耗している場合は新しいものに交換してください。
- GIANT WheelSystemを使用する場合、乗車前にタイヤを確認してください。パンクが見つかった場合、タイヤを交換してください。

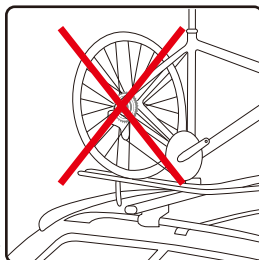
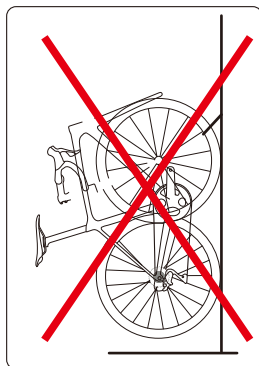


図 12

▲ 警告

カーボン製品の損傷を防ぐため、65°Cを超えるような高温下での保管や輸送は避けてください。高温下では、カーボン繊維同士をつなぎ合わせる樹脂に深刻なダメージを与える可能性があります。カーボン製品を熱源から45cm以上離すことを推奨します。(例：自動車のマフラー、ヒーター、暖炉といった強力な熱源のそばなど)

品質保証

- 株式会社ジャイアント (以下ジャイアント) は、お買い上げいただきましたGIANT製品を本マニュアルに従った通常の使用状態で、製造上もしくは材料に起因する不具合が起きましたときには、GIANT正規販売店で新品の製品をご購入いただいたお客様にのみ、本規定に基づき修理・交換いたします。(保証期間：2年)

保証内容

明示されている場合を除き、こちらに記載されていない全ての保証内容は、不具合のある製品の、それと同等かそれ以上の価値があるとジャイアントが独自に判断するパーツへの交換のみに限らせていただきます。ジャイアントはいかなる場合でも、直接的、二次的、あるいは派生的に起こった、負傷による損害、所有物への損害、経済的な損害などを含むあらゆる損害に対し、それが契約、保証、過失、製造物責任、またその他の理論に基づくものであっても、その責任を負うことはありません。

保障できない事項

次に示すものに起因すると判定される故障は保証いたしません。

- 通常の使用において自然に生じたパーツの摩耗および劣化。
- タイヤ、リムテープ、スポーク、ブレーキパッド、およびチューブレスシーラントを含む消耗部品。
- GIANT が認定しないブレーキパッドまたはタイヤを使用したことによる損傷。
- GIANT 正規販売店以外が修理した製品。
- 製品の仕様が購入時から変更されている場合。
- レースまたはそれに類する酷使、商用あるいは一般に自転車が行かない場所での走行。
- 本マニュアルに従わなかったことによる損傷。
- 塗料やステッカーのダメージ、レース参加、ジャンプ、ダウンヒル、これに準ずる活動やイベントのための練習などで、過酷な条件や環境で製品を使用した場合。
- パーツ交換や改造にかかる人件費。

本保証書で提供されているもの、およびすべての追加的な保証によるものを除き、ジャイアントとその従業員および販売店は (偶発的または派生的な損失、不注意や不履行による損害を含む) いかなる GIANT 製品に起因するあらゆる損失や損害に対し、その責任を負うことはありません。

ジャイアントはここで明記した、または明記していない保証以外の内容を、保証として行うことはありません。製品価値や特定の目的に対する適合性に関する事柄を含む、ここに明記されていない全ての保証は、上記の保証の期間内にも適用されるものとなります。

保証を受ける場合には、GIANT 正規販売店に申し付けください。保証を受ける場合には、保証書と購入時のレシートまたはその他の購入日を証明するものが必須です。